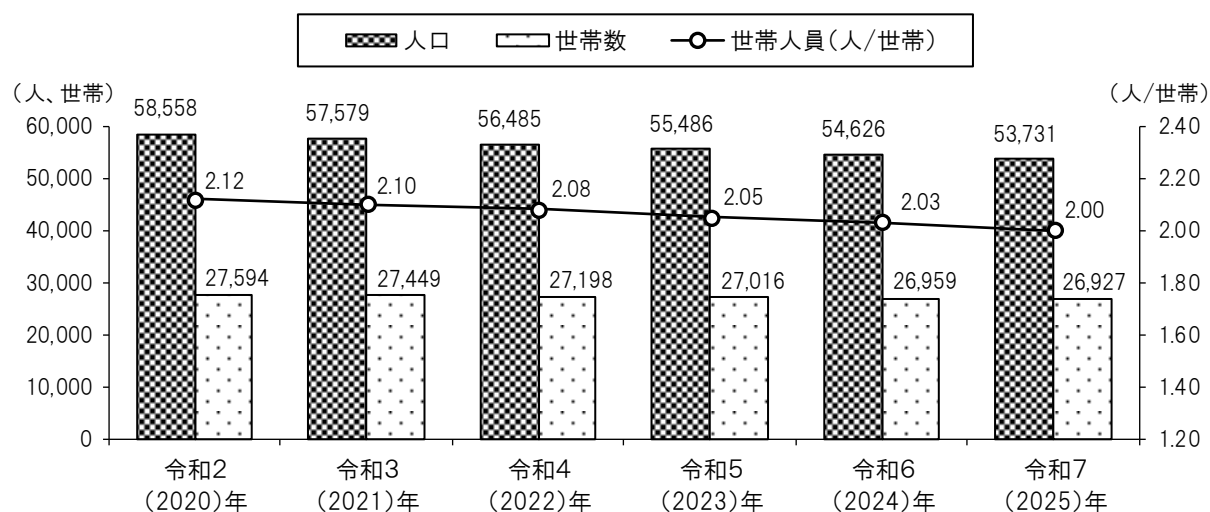


【1】人口の状況

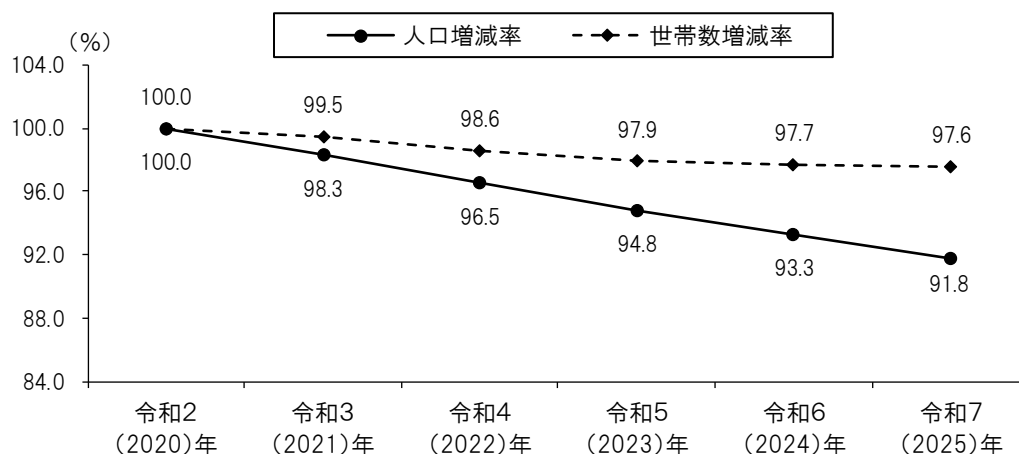
1 人口・世帯数

本市の人口は減少傾向にあり、令和7（2025）年3月現在 53,731 人となっています。世帯数も緩やかに減少しており、1 世帯当たりの人口数を示す世帯人員は、令和2（2020）年の 2.12 人から令和7（2025）年で 2.00 人となっています。

【 人口・世帯数の推移 】



【 人口・世帯数増減率 】



注：増減率は、令和2（2020）年を 100 とした場合の各年の割合を示している。

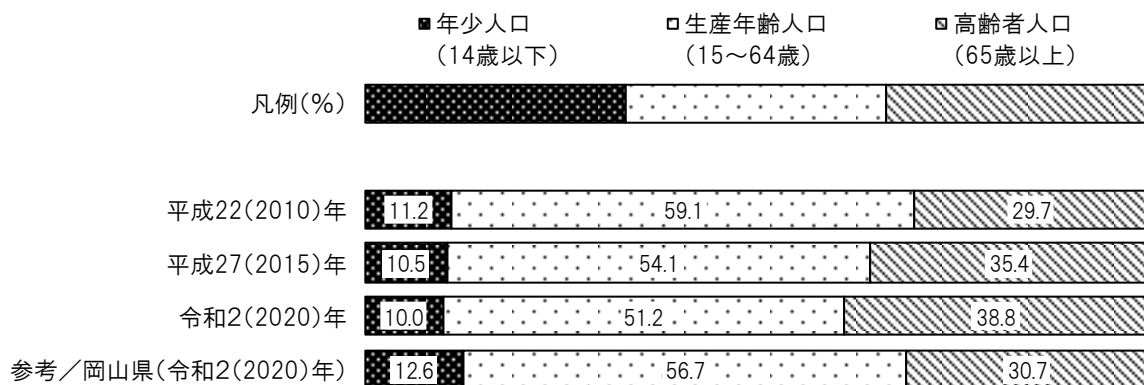
資料：住民基本台帳（各年3月末日現在）

2 年齢別人口

本市の人口構成比をみると、令和2（2020）年では「年少人口（14歳以下）」の割合が10.0%、「生産年齢人口（15～64歳）」が51.2%、「高齢者人口（65歳以上）」が38.8%となっています。

高齢者人口の割合（高齢化率）は増加傾向にあり、岡山県の平均を上回っています。一方、年少人口は緩やかに減少しており、少子高齢化の進行がうかがえます。

【 年齢3区分別人口構成比 】



資料：国勢調査

3 人口動態

出生と死亡の差からみる「自然動態」は近年、死亡者数が出生数を上回り、マイナスで推移しています。また、転入と転出からみる「社会動態」についても、市外への転出者数が市内への転入者数を上回る転出超過傾向にあります。

令和5（2023）年度では、合計838人の人口減少となっています。

【 人口動態 】

(単位：人)

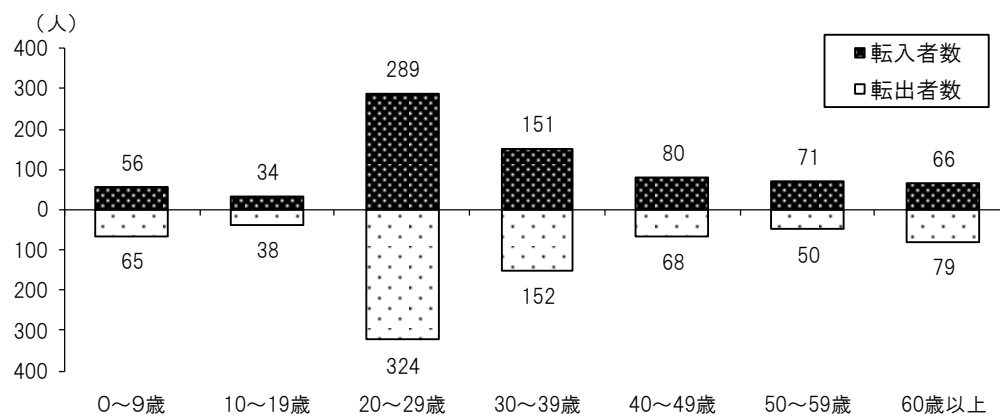
	自然動態			社会動態			人口動態
	出生数 (a)	死亡者数 (b)	(c)	転入 (d)	転出 (e)	(f)	(g)
令和2（2020）年度	259	831	-572	1,252	1,649	-397	-969
令和3（2021）年度	269	922	-653	1,217	1,625	-408	-1,061
令和4（2022）年度	250	1,006	-756	1,548	1,745	-197	-953
令和5（2023）年度	218	935	-717	1,489	1,610	-121	-838

注：(c)=(a)-(b)、(f)=(d)-(e)、(g)=(c)+(f)

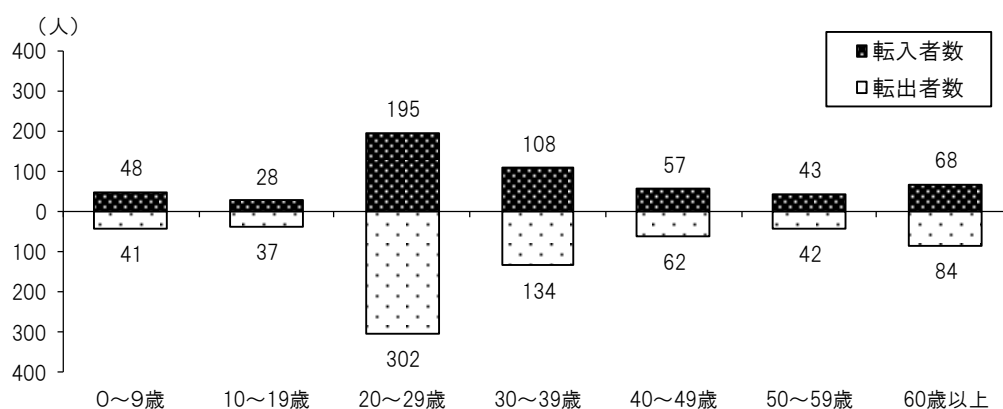
資料：住民基本台帳（各年度3月末日現在）

年齢別に社会増減数をみると、男女共に 20 代で転出者数が多く、男性の 40～50 代で転入者数が多くなっています。

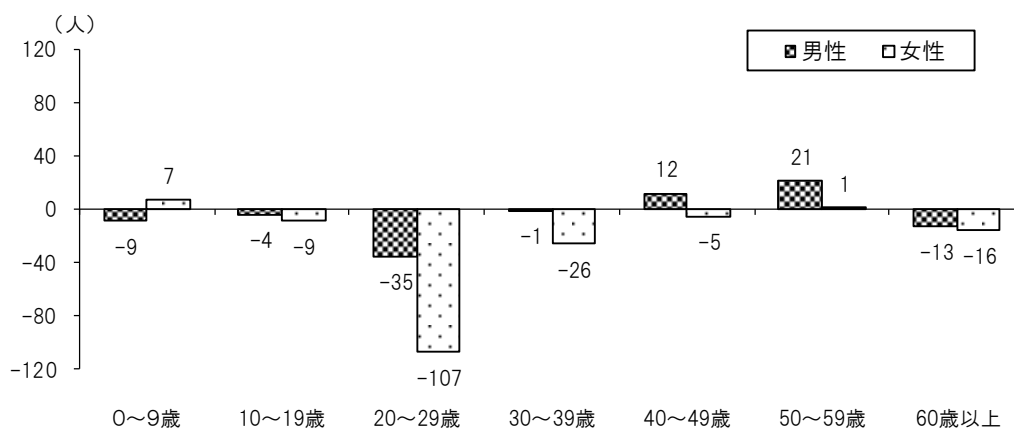
【 年齢別転入・転出者数（男性） 】



【 年齢別転入・転出者数（女性） 】

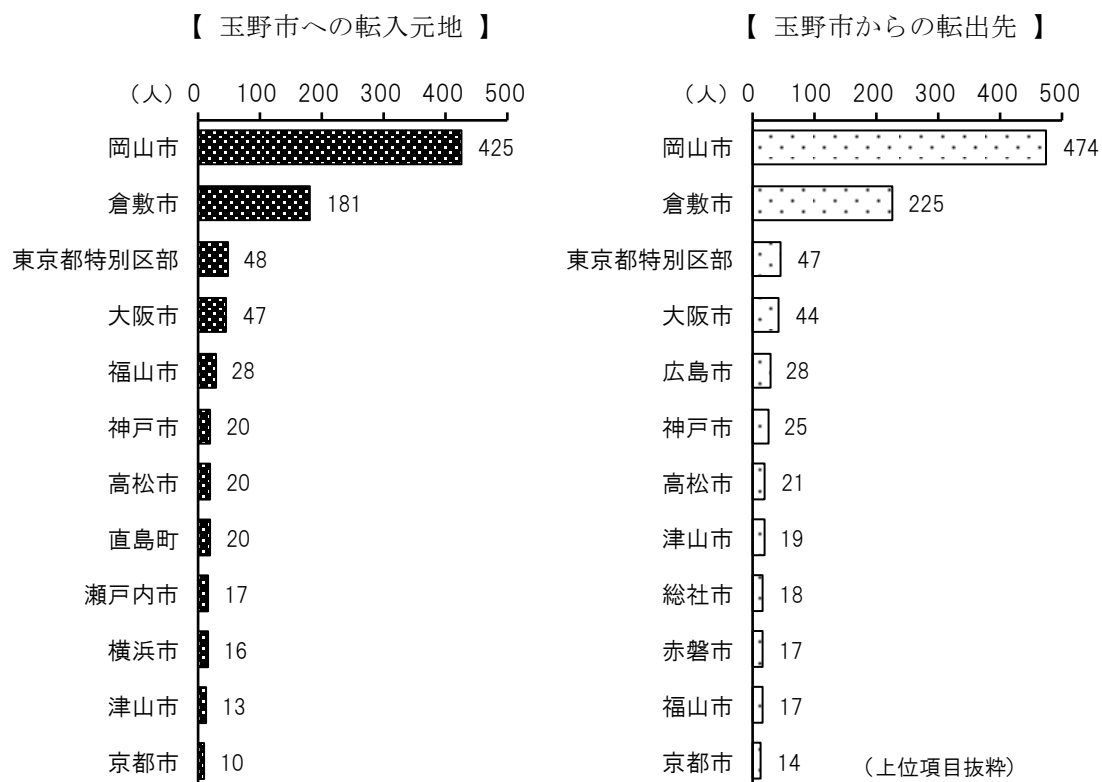


【 年齢別社会増減数（転入者数－転出者数） 】



資料：住民基本台帳人口移動報告（令和 6（2024）年）

本市への年間当たり転入者は、「岡山市」からが最も多く、次いで「倉敷市」「東京都特別区部」「大阪市」となっています。一方、本市からの転出先も「岡山市」「倉敷市」が多く、人口交流関係が強い傾向がうかがえます。また、「岡山市」「倉敷市」は転出者数が転入者数を上回る転出超過の状態となっています。



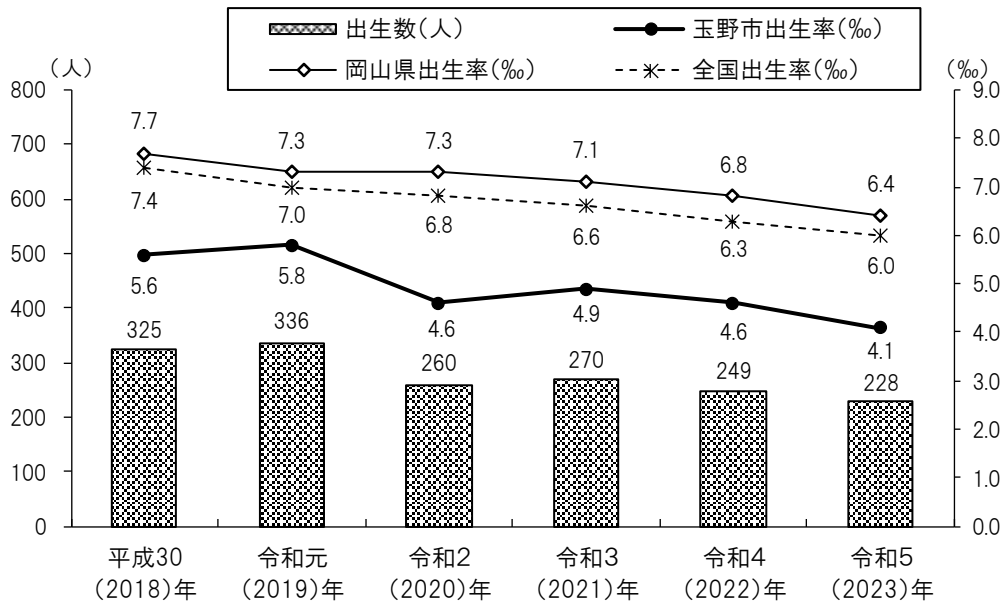
資料：住民基本台帳人口移動報告（令和6（2024）年）

【 2 】 出生等の状況

1 出生数・出生率

本市の出生数は、長期的には減少傾向にあり、令和 5（2023）年は 228 人となっています。また、本市の出生率※¹は、全国や岡山県の平均を下回って推移しています。

【 出生数・出生率の推移 】



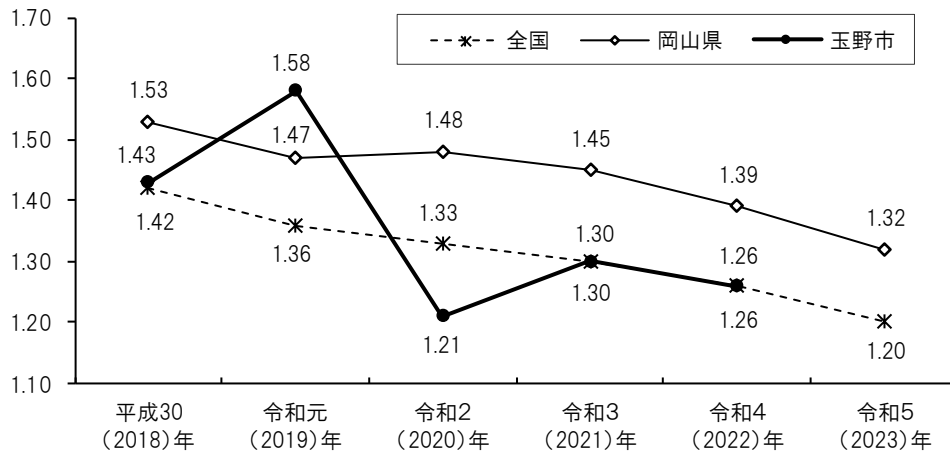
※ 1 人口 1,000 人当たりにおける出生数の割合（‰パーミル）

資料：岡山県衛生統計年報

2 合計特殊出生率

本市の合計特殊出生率※²は、令和 4（2022）年は 1.26 人となっており、岡山県の平均を下回り、全国平均と同程度となっています。

【 合計特殊出生率の推移 】



※ 2 一人の女性が生涯に生む子どもの人数

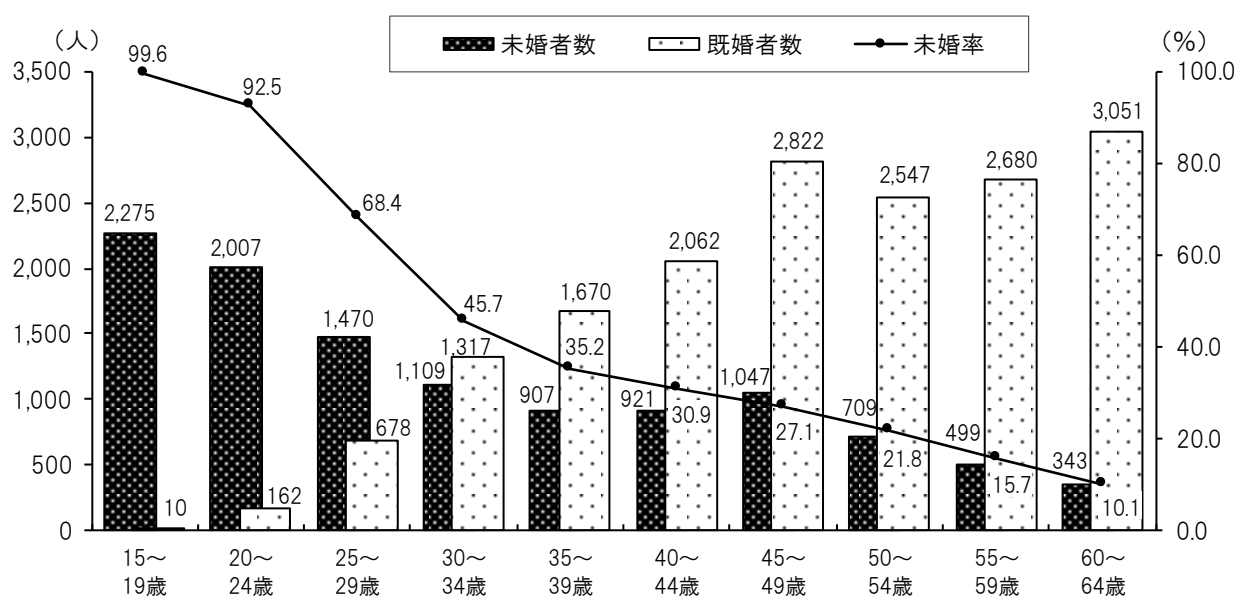
資料：岡山県衛生統計年報（玉野市の令和 5（2023）年の数値は現時点では未公表）

3 婚姻の状況

本市の未婚者数と既婚者数を年齢別にみると、20代後半までは未婚者数が既婚者数を大きく上回っていますが、30代前半になると逆転することから、30代が婚姻の中心的年齢層であることが分かります。

年齢別に未婚率の推移をみると、平成27（2015）年に比べ、男女共に20代の未婚率が増加しています。また、平成17（2005）年に比べ、男女共に35～39歳の未婚率が大きく増加しています。

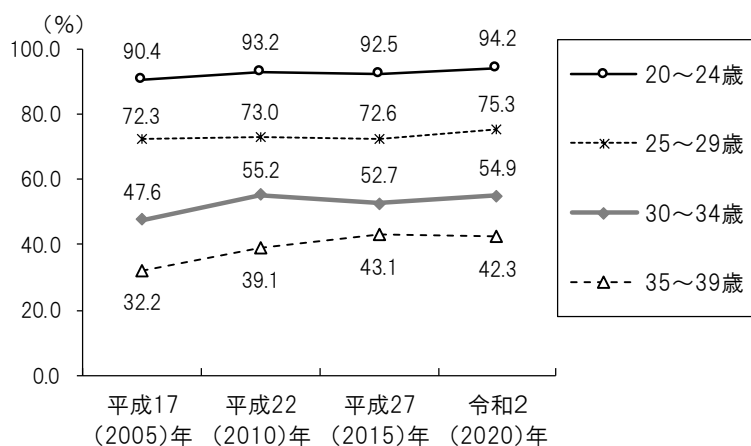
【 年齢別未既婚者数と未婚率 】



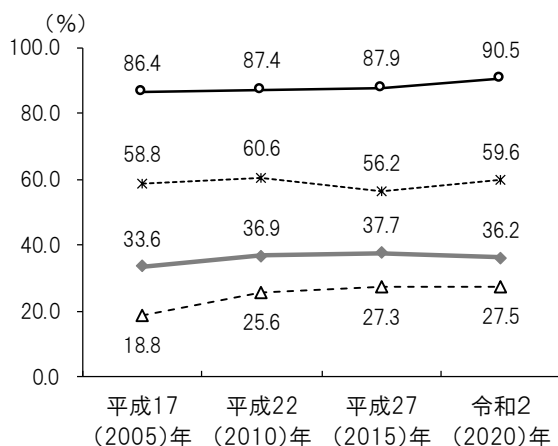
資料：国勢調査（令和2（2020）年）

【 年齢別未婚率の推移 】

【 男性 】



【 女性 】



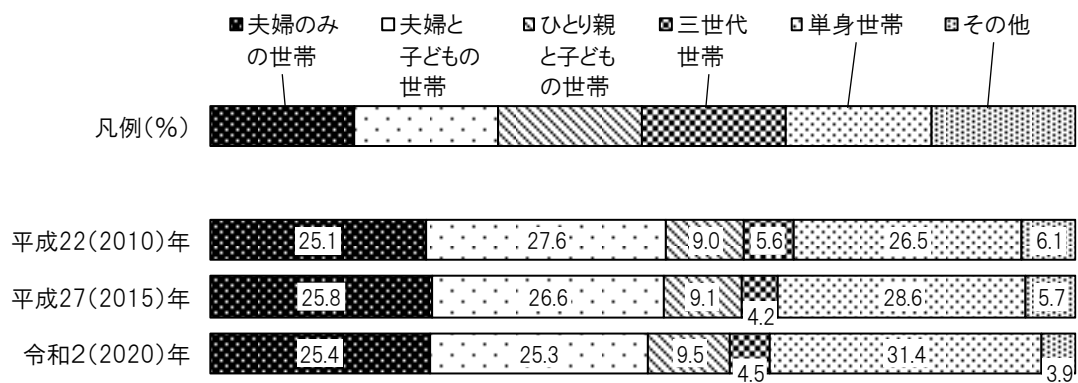
資料：国勢調査

【 3 】 世帯の状況

1 世帯構成

世帯構成について、平成 22（2010）年から令和 2（2020）年までの推移でみると、「ひとり親と子どもの世帯」「単身世帯」は増加傾向にありますが、「夫婦と子どもの世帯」は緩やかに減少しています。

【 世帯構成の推移 】



資料：国勢調査

2 ひとり親家庭の状況（20歳未満の子どもがいる世帯）

本市の 20 歳未満の子どもがいるひとり親家庭は、令和 2（2020）年では 325 世帯となっており、そのうち大半を母子世帯で占めています。

【 ひとり親家庭の状況 】

	平成 22（2010）年	平成 27（2015）年	令和 2（2020）年
ひとり親家庭（合計）	474	395	325
母子世帯数	414（87.3%）	343（86.8%）	275（84.6%）
父子世帯数	60（12.7%）	52（13.2%）	50（15.4%）

資料：国勢調査

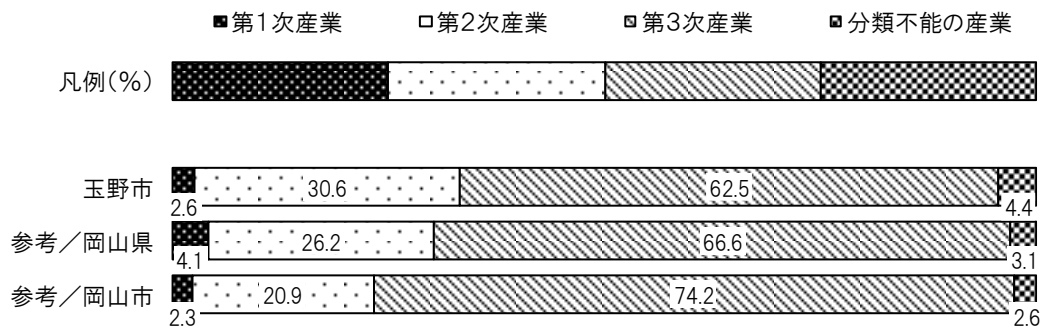
【4】就業の状況

1 就業構造

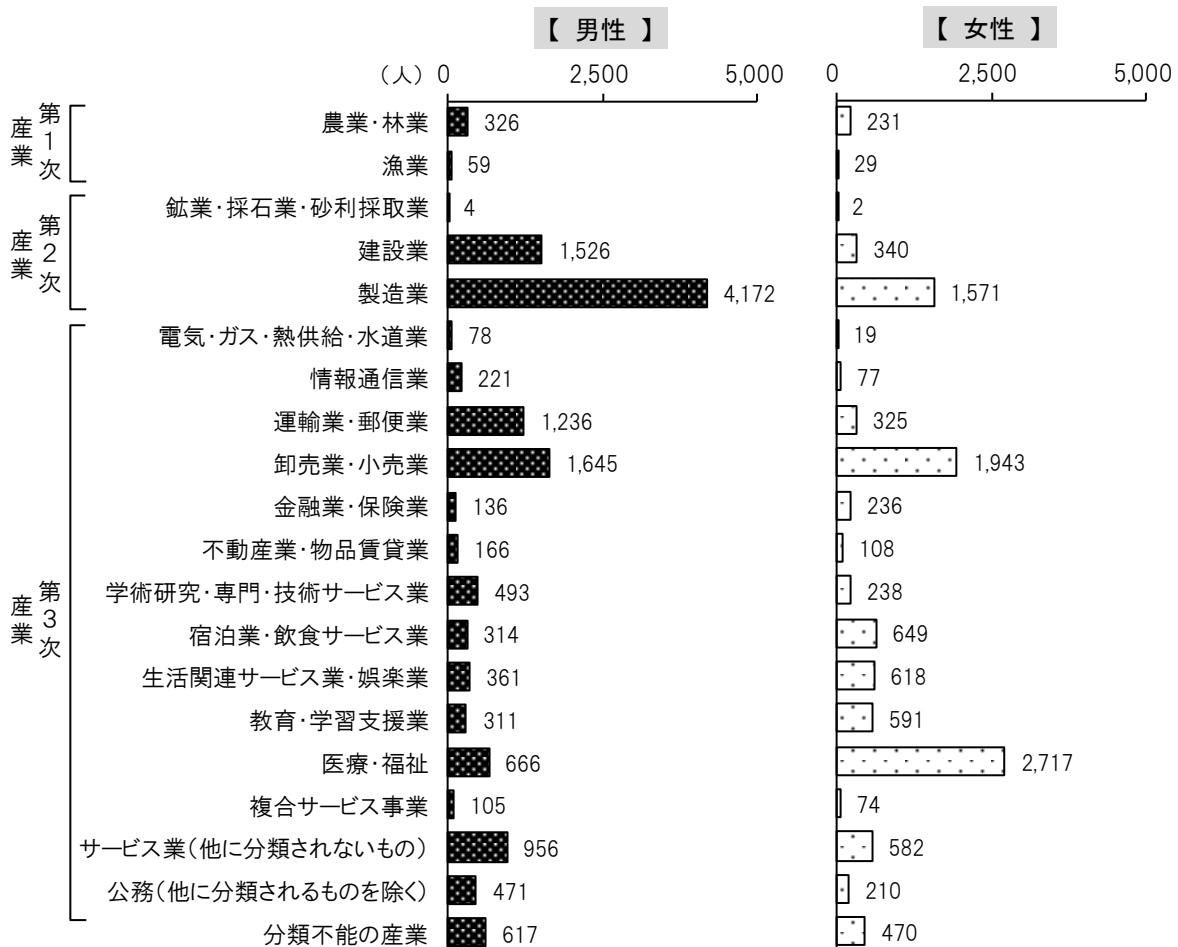
本市の産業別就業者構成比をみると、令和2（2020）年では第1次産業の割合が2.6%、第2次産業が30.6%、第3次産業が62.5%となっています。岡山県全体と比べ、第2次産業の割合が高く、第3次産業の割合は低くなっています。

産業大分類別でみると、男性は「製造業」が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「医療・福祉」が多くなっています。

【 産業別 15 歳以上就業者構成比 】



【 産業大分類別 15 歳以上就業者数 】

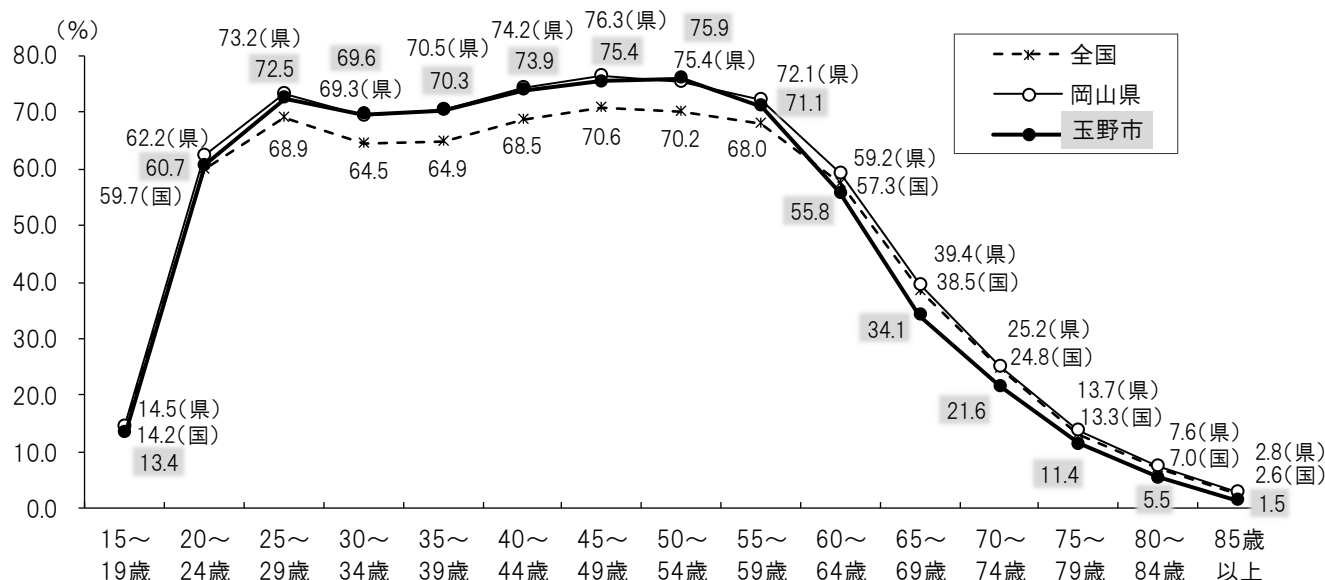


資料：国勢調査（令和2（2020）年）

2 女性の年齢別就業率

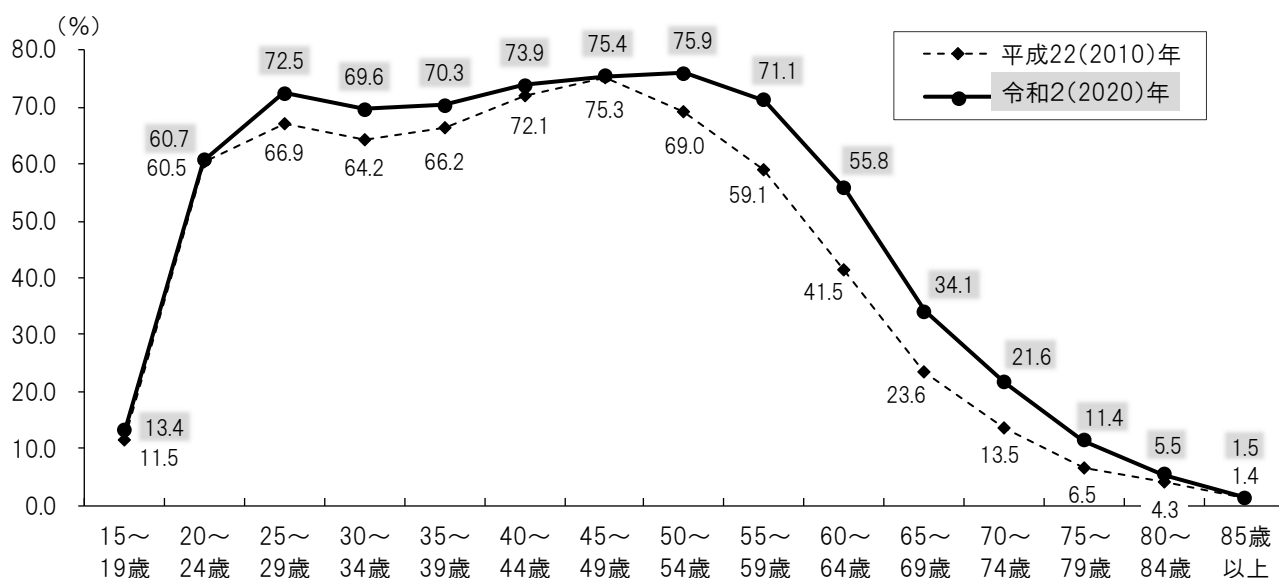
60歳未満における本市の女性の就業率をみると、全国の平均を上回り、岡山県の平均と同程度となっています。また、平成22(2010)年に比べ全体的に増加しており、平成22(2010)年では、30代の子育て世代の就業率が一旦低下する「M字カーブ※」の状況がみられましたが、令和2(2020)年ではその傾向は緩やかな「台形」に変化しつつあります。

【女性の就業率（国・県比較）】



資料：国勢調査（令和2（2020）年）

【女性の就業率（経年比較）】



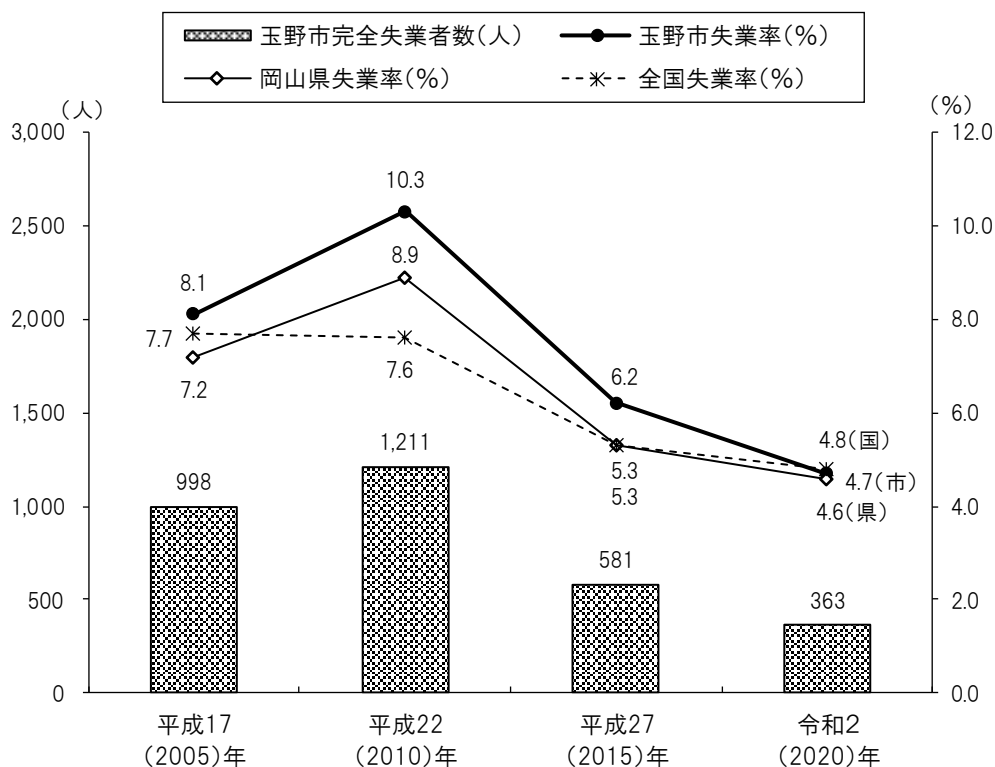
資料：国勢調査

※ 日本の女性の就業率を年齢階級別にグラフ化したとき、例えば30代前半を谷とし、20代後半と30代後半が山になるアルファベットのMのような形になること。

3 若者の失業率

本市における若者（15～39 歳）の完全失業者※¹数、失業率※²は減少傾向にあります。本市の若者の失業率は、全国や岡山県の平均を上回って推移していましたが、令和 2（2020）年では全国や岡山県の失業率とほぼ同程度となっています。

【 若者（15～39 歳）の失業率の推移 】



※ 1 15 歳以上の働く意欲のある人のうち、仕事を探しても仕事に就くことのできない人

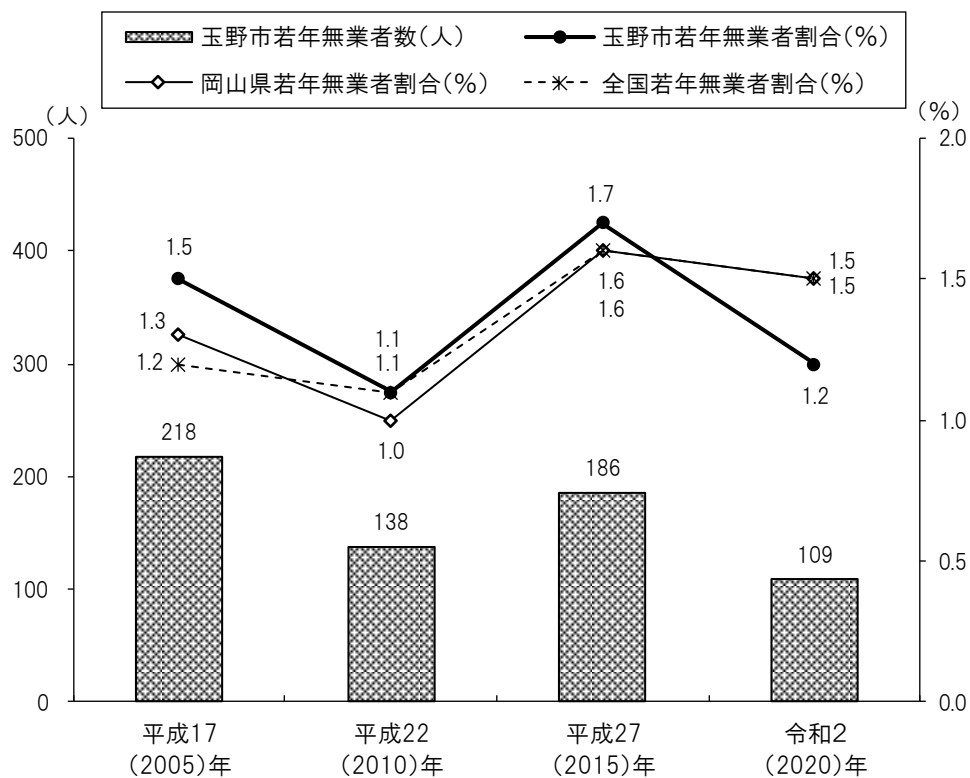
※ 2 労働力人口（15～39 歳）に占める完全失業者の割合

資料：国勢調査

4 若年無業者（ニート）の状況

本市の若年無業者※¹数は、増減を繰り返しながら推移しており、長期的には減少傾向にあります。本市の若年無業者の割合※²は、全国や岡山県の平均をやや上回って推移していましたが、令和2（2020）年では全国や岡山県を下回っています。

【 若年無業者の割合の推移 】



※1 15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない人

※2 15～34歳の人口に占める割合

資料：国勢調査

【5】教育支援の状況

1 不登校に関する状況

本市における不登校の児童・生徒の割合は、小・中学校共に増加傾向にあります。

【 不登校の児童・生徒の割合の推移 】

(単位：%)

	令和2 (2020)年度	令和3 (2021)年度	令和4 (2022)年度	令和5 (2023)年度	令和6 (2024)年度
小学校	1.02	2.21	2.25	3.07	3.43
中学校	5.58	5.85	7.53	8.51	9.11

資料：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（各年度3月末日現在）

2 中学生の進路状況

中学生の卒業後の進路については、大半が高等学校へ進学しています。

【 中学生の進路状況 】

	令和2 (2020)年度	令和3 (2021)年度	令和4 (2022)年度	令和5 (2023)年度	令和6 (2024)年度
卒業生徒数 全数（人）	393	423	402	396	387
うち高等学校進学者（人）	385	420	394	391	381
高等学校進学率（%）	98.0	99.3	98.0	98.7	98.4
うち高専入学者（人）	1	2	0	3	0
うち特別支援（人）	6	8	5	3	5
うちその他（人）	20	20	12	14	26

資料：「高等学校等進学状況調査表」（各年度5月1日現在）

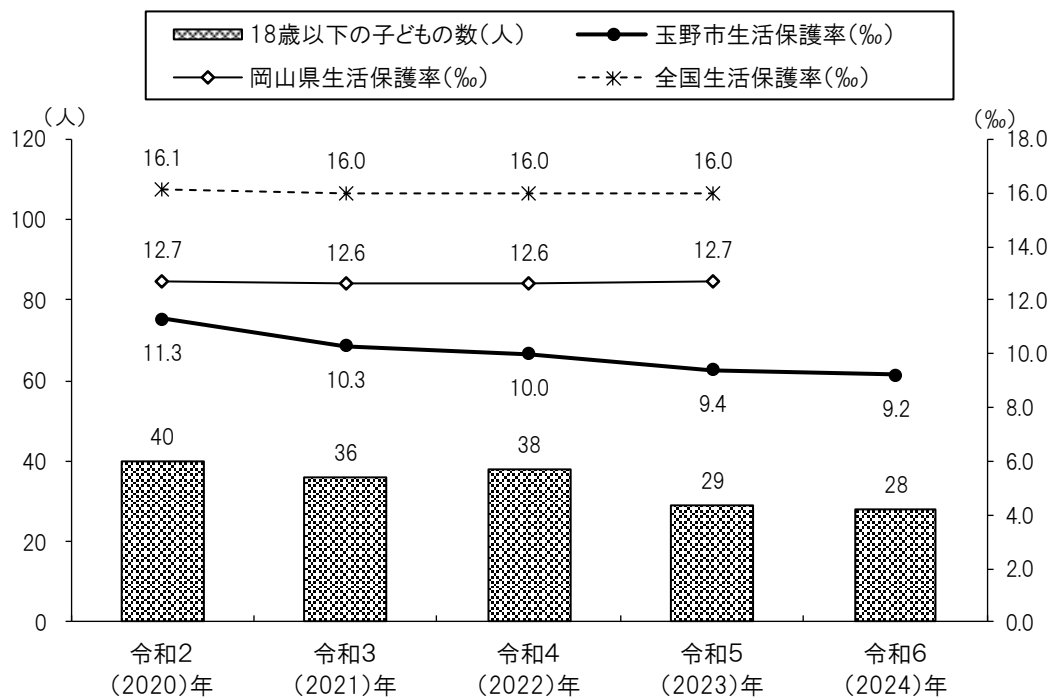
【6】生活支援の状況

1 生活保護世帯の状況

本市の生活保護世帯数は、令和6（2024）年で431世帯と緩やかな減少傾向にあり、そのうち18歳以下の子どもの数も令和6（2024）年で28人と減少傾向にあります。

本市の生活保護率も緩やかに減少しており、全国や岡山県の平均を下回って推移しています。

【生活保護世帯とその子どもの数の推移】



	令和2 (2020)年	令和3 (2021)年	令和4 (2022)年	令和5 (2023)年	令和6 (2024)年
生活保護世帯数(世帯)	527	493	474	444	431
生活保護人員(人)	669	603	569	531	508
うち18歳以下の子どもの数(人)	40	36	38	29	28
玉野市生活保護率(‰)	11.3	10.3	10.0	9.4	9.2
岡山県生活保護率(‰)	12.7	12.6	12.6	12.7	-
全国生活保護率(‰)	16.1	16.0	16.0	16.0	-

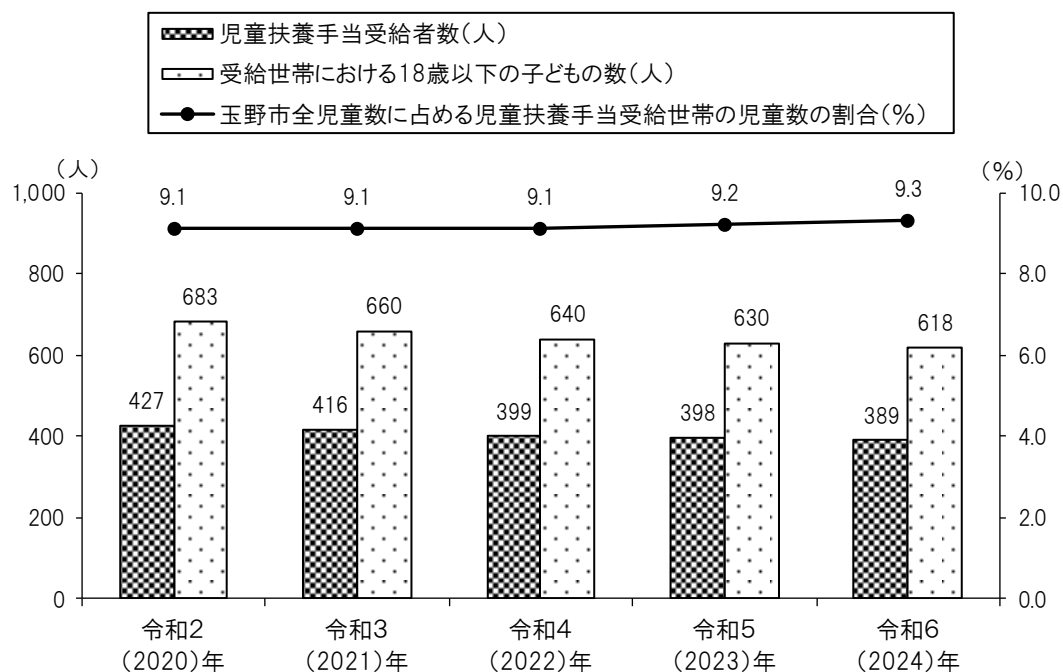
注：単位‰（パーミル：千人当たり）

資料：市、県は岡山県地域福祉課（各年3月現在）、国は「厚生労働省 生活保護の被保護者調査」（1か月平均値）

2 児童扶養手当の状況

本市の児童扶養手当受給者数は、令和6（2024）年で389人、そのうち18歳以下の子どもの数は618人となっており、緩やかな減少傾向にあります。本市の児童扶養手当受給世帯の児童数の割合は、令和6（2024）年は9.3%となっています。

【 児童扶養手当受給者数とその子どもの数の推移 】



	令和2 (2020) 年	令和3 (2021) 年	令和4 (2022) 年	令和5 (2023) 年	令和6 (2024) 年
児童扶養手当受給者数 (人)	427	416	399	398	389
受給世帯における 18 歳以下の子ども数 (人)	683	660	640	630	618
玉野市全児童数に占める児童扶養手当受給世帯の児童数の割合 (%)	9.1	9.1	9.1	9.2	9.3

資料：児童扶養手当受給者数は岡山県地域福祉課（各年12月末現在）

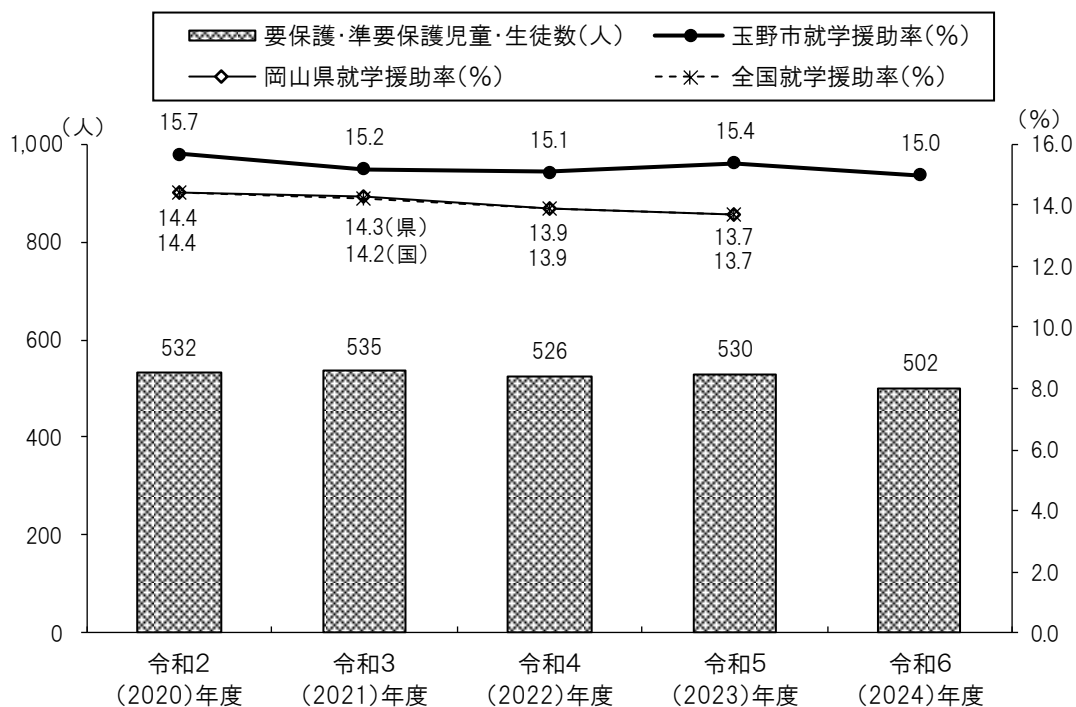
受給世帯における18歳以下の子どもの数は「年齢別階層別人口集計表」（各年12月末現在）

児童扶養手当受給世帯の児童数の割合は「福祉行政報告例第61表」（各年12月末現在）

3 就学援助の状況

本市の要保護・準要保護児童・生徒数は令和6（2024）年度で502人となっており、長期的には減少傾向にあります。また、本市の就学援助率は令和6（2024）年度で15.0%と、全国や岡山県の平均を上回って推移しています。

【 就学援助を受けた児童・生徒数（要保護・準要保護児童・生徒数）の推移 】



	令和2 (2020)年度	令和3 (2021)年度	令和4 (2022)年度	令和5 (2023)年度	令和6 (2024)年度
要保護児童・生徒数(人)	5	4	4	6	2
準要保護児童・生徒数(人)	527	531	522	524	500
玉野市就学援助率(%)	15.7	15.2	15.1	15.4	15.0
岡山県就学援助率(%)	14.4	14.3	13.9	13.7	-
全国就学援助率(%)	14.4	14.2	13.9	13.7	-

資料：市は庁内資料、県、国は「文部科学省 就学援助実施状況等調査結果」

4 生活保護世帯の子どもの進学状況等

令和6（2024）年度では、生活保護世帯の全ての子どもが高等学校に進学していますが、大学等への進学者はみられませんでした。また、生活保護世帯の子どもの高等学校卒業後の就職率は50.0%となっています。

【 生活保護世帯の子どもの進学率、高校等中退率、就職率の推移 】

（単位：％）

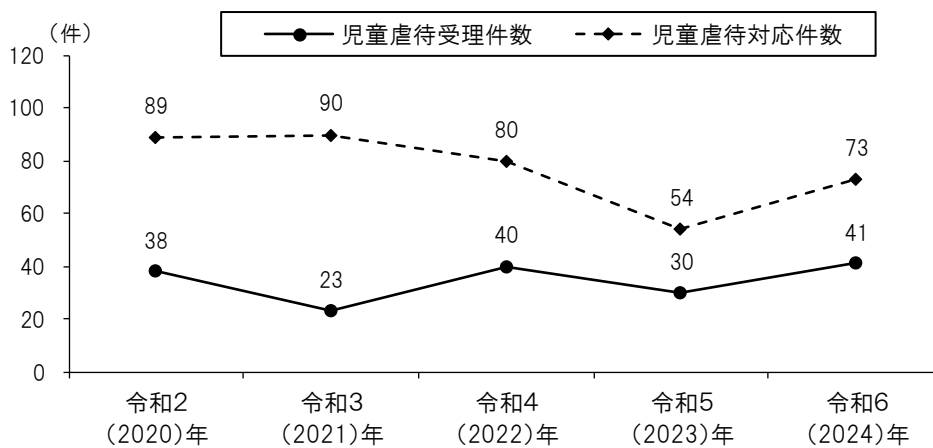
	令和2 (2020) 年 度	令和3 (2021) 年 度	令和4 (2022) 年 度	令和5 (2023) 年 度	令和6 (2024) 年 度
高等学校進学率	80.0	100.0	100.0	75.0	100.0
大学等進学率	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
高等学校等中退率	16.7	15.3	0.0	0.0	0.0
就職率（中学校卒業後）	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
就職率（高等学校卒業後）	100.0	25.0	0.0	100.0	50.0

資料：庁内資料（各年度3月末日現在）

5 児童虐待の状況

本市の児童虐待受理件数は令和6（2024）年で41件、児童虐待対応件数は73件となっています。児童虐待対応件数は減少傾向にありましたが、令和6（2024）年は増加しています。

【 児童虐待の状況 】



資料：福祉行政報告例（各年4月1日現在）